


HAMMOND
SUPER B
取扱説明書

昭和61年12月

Version 1.0

107-03699

 株式会社ハモンド・スズキ

ごあいさつ

このたびは、数ある電子オルガンの中からハモンドオルガンをお選びいただき、誠に有難うございます。SUPER Bは、伝統的なハモンドオルガンのスタイルに、新開発のデジタル音源およびフルデジタル・コントロール機能を搭載した、まさに新世代のハモンドオルガンです。

オルガン本体のトーンバーを主体に、フル装備のMIDI機能を通じて外部音源やドラムマシン、シーケンサーなどすべてを本体サイドでコントロールができます。

SUPER Bの優れた性能をフルに発揮していただき、末永くご愛用いただくため、ご使用前にこの取扱説明書を良くお読みいただきますようお願い致します。

この取扱説明書の使い方

この取扱説明書は、2つの部分から成っており、第1部（基本編）ではオルガンの基本的な操作について、また、第2部（エディット編）では音色のエディット（修正や編集）やプリセットのメモリー、MIDIパラメーターの操作方法などについてご説明します。本体及びカード・ボイスなど既存の音色を中心に演奏される方は、第1部（基本編）をご覧ください。また、カード・ボイスやMIDIを使い、音色のエディットや特定のパラメーターを必要とされる方は第1部（基本編）に続いて第2部（エディット編）にお進みください。

HAMMOND
SUPER B
取扱説明書

第1部
基本編

第1部基本編
目次

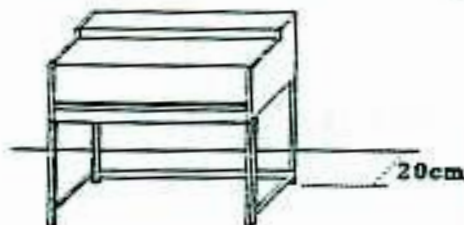
☆ご使用の前に	4
☆オルガンの接続	5
☆オルガンの起動	7
☆ディスプレイ	8
☆プリセット	9
☆トーンバー	11
☆パーカッション	14
☆効果の設定	15
☆ビブラート	15
☆レスリー	16
☆サステイン、スロー・アタック	18
☆リバーブ	19
☆カード・ボイス	20
☆ペダルの音色	24
☆MIDI	25
☆外部リズム・コントロール	28
☆プロ・フット	30
☆トランスポーズ	31
☆故障とお考えになる前に	32
☆アフター・サービスと保証について	33

ご使用の前に

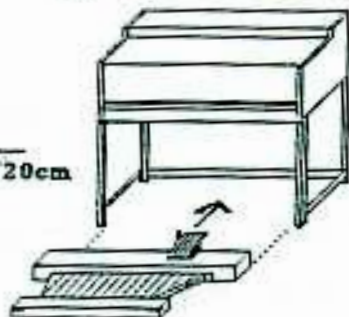
- 設置場所：湿気が少なく、風通しの良い場所をお選びください。
- 直射日光を避けてください。
- 暖房器具のそばに置かないでください。
- 振動の少ない、平らな床面においてください。
- 壁から約10cmほど離してください。
- 譜面立てと蓋：譜面立ては、オルガン本体の正面にある溝に立てます。
- 譜面立てに無理な力を加えるとキャビネットを痛める原因になります。おしまいになるときは、静かにお取り扱い願います。
- スーパーBの蓋は、高級木材を使用し、重厚な仕上げをしております。蓋をお閉めになる際、手をはさまぬよう、特にお子様にはご注意ください。
- 電源について：電源には、一般ご家庭用の100Vコンセントをご使用ください。
- 電源コードは、オルガン本体やイスで踏み付けたり、また足で引っかけたりしないようにご注意ください。
- 調律について：ハモンドオルガンは、信頼性の高い部品を使用しておりますので、長くご使用いただいても調律の必要は全くありません。
- オルガンに何か変化があったら：オルガンに水がかかったり、変なおいや煙が出た場合は、ただちに電源を切り、すみやかに買い求めいただいた特約店もしくはハモンド・スズキ・サービスセンターまでご連絡ください。

オルガンの接続

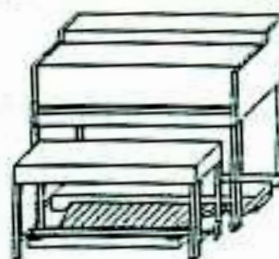
① 本体を置きます。



② ペダルを置きます。



③ 椅子を置きます。

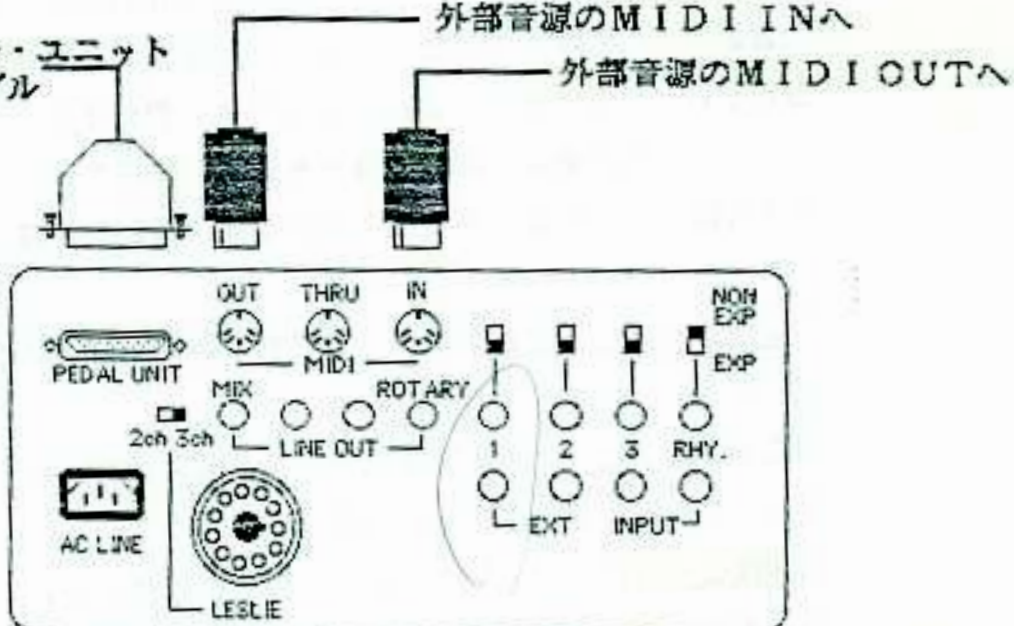


④

ペダル・ユニット
ケーブル

外部音源のMIDI INへ

外部音源のMIDI OUTへ



⑦

リズムケーブル



⑤

レスリー
ケーブル



リズムの
出力端子へ

外部音源の
出力端子へ

オルガンの接続

本体、イス、ペダル・ユニット、レスリーをバックリング・ケースから取り出したら、図のように組み立ててください。

①本体を置きます。この時、壁面から少なくとも20cmあけてください。

②ペダル・ユニットを置きます。奥のストッパーに当たるまで静かに異動させながら位置を決めてください。

③イスを置きます。

④ペダル・ユニットのケーブルを、本体背面の端子に接続します。背面の端子パネルは、蓋を軽く押すと、手前に開きます。下側の穴からケーブルを通してください。端子に奥までしっかり差し込み、両側のネジを締めます。

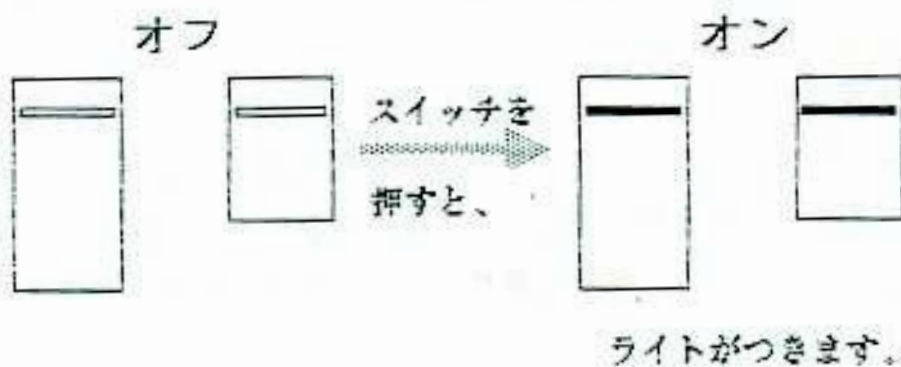
⑤レスリー・ケーブルを接続します。端子の中央にある穴の向きを良くお確かめの上、しっかりと差し込んでください。

⑥外部入力や、MIDIを接続する場合は、各端子に接続します。3系列の端子は、それぞれR（ライト）、L（レフト）のステレオ入力になっています。モノラルでお使いになる場合は、L（レフト）に接続してください。また、外部入力を使うときは、エクスプレッション・ペダルと連動させる「EXP」、またはエクスプレッションに関係なく一定の音量になる「NON EXP」を切換えてください。

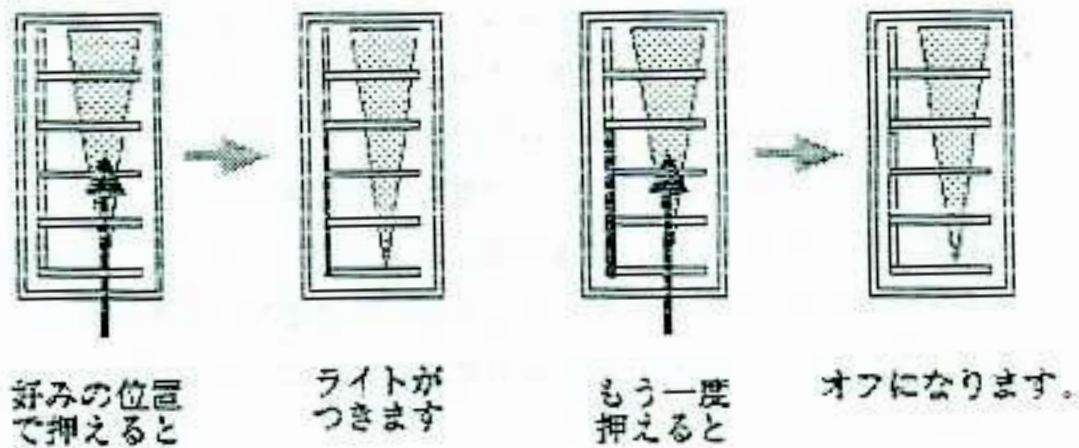
⑦電源コードを差し込み、本体の電源をオンにします。外部音源や、ドラムマシンなどを接続しているときは、外部機器の電源をあらかじめオン（入れる）にしてから、本体の電源をオンにしてください。

スイッチとビジュアル・ポインター

スイッチの操作



ビジュアル・ポインター



スイッチなどの操作方法：SUPER Bは、演奏上の操作性を第一に設計されており、パネル上のセッティングは、基本的にLEDスイッチと、ビジュアル・ポインターで行ないます。スイッチは、その部分の機能が働いているときに、LEDが点灯します。また、ビジュアル・ポインターは、音量やバランスなどをお好みの大きさ、強さに調節するもので、5段階のLEDで表示します。LEDの右側の部分を軽く指で押すと、押さえたレベルになります。もう一度押すと、レベルはゼロ（オフ）になります。

オルガンの起動

オルガンの接続ができたなら、本体の右側にある電源スイッチを入れてみましょう。中央のディスプレイに、HAMMOND ORGAN SUPER B PLEASE WAIT (しばらくお待ちください) と表示されます。3秒ほど後に、READY (準備完了) と表示されます。もし、ディスプレイが見えにくい場合は、ディスプレイ CONTRAST (明るさ調整) のつまみを回して、文字の濃さを調節してください。電源スイッチをオンにした直後には必ずこの画面が表示されます。もし、なかなかREADYの表示が出ない場合は、一度電源を切り、接続をもう一度確かめてください。

SUPER Bの場合、電源をオンにした直後のパネルの設定には二通りのケースがあります。

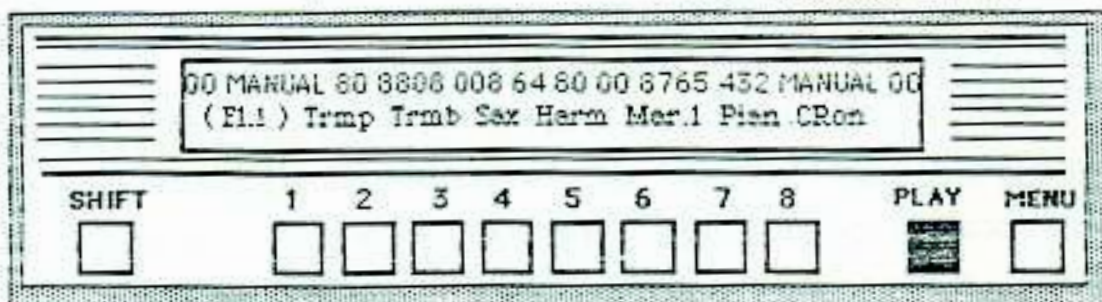
1. 工場出荷時の設定になる場合。
2. 電源をオフにしたときにされていた設定になる場合。

SUPER Bをお買い求めいただき、最初に電源をオンにしたとき、およびリセットを実行し、強制的にオルガンのセッティングを初期状態に戻した場合には、上記の1. の状態と同じになります。また、SUPER Bはメモリーの記憶内容を一時的に記憶するためにメモリー保護回路(メモリー・バックアップ)を内蔵しており、通常は、一旦電源を切り、再び電源を入れたときには、電源をオフにする直前のセッティングがそのまま表示されます。メモリー・バックアップは、約30分以上電源を入れていると、約1週間メモリー内容を保持します。

(但し、カード・ボイスの音色データ、MIDIスイッチおよびトーンバーのモード設定に関するメモリー内容は保護されません。

ディスプレイ・モード

プレイ・モード



プレイ画面表示中にもう一度プレイ・スイッチを押すと、
トーンバーを形で表示します。

メニュー・モード



各モードに対応する番号のスイッチを押えます。

ディスプレイ

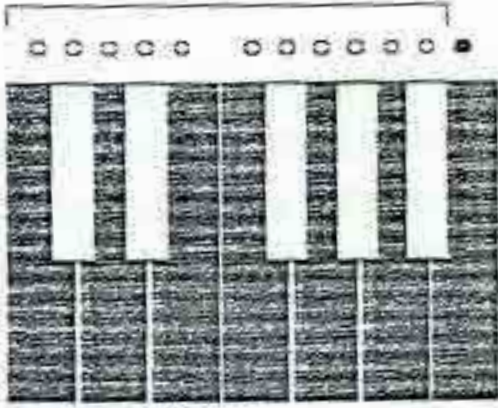
通常、パネルにあるスイッチで演奏に必要な操作を行ないますが、オルガンの演奏に必要なセッティングや各音色の設定値、MIDIの設定などすべての演奏情報は、ディスプレイに表示されます。また、ディスプレイの下にある1～8までのスイッチは画面の表示に対応しており、音色の切換えや値を調整します。

ディスプレイ右側にあるプレイとメニューのスイッチは、ディスプレイのモードや設定にかかわらず、常にプレイ画面、メニュー画面に変える働きをします。

電源スイッチをオンにしたら、まずプレイ・スイッチを押してください。通常の演奏中には、プレイ画面にします。プレイのスイッチを押すと、ディスプレイ上段にトーンバーやプリセット名、MIDIのプログラム・ナンバーが、下段にはカード・ボイスの音色やコーラス、トランスポートの値などが表示されます。また、プレイ画面表示中にもう一度プレイのスイッチを押すことにより、トーンバーの表示を数字や形に切換えまします。カード・ボイスの音色が読み込まれているときには下の段にその音色名が表示されますが、カードの読み込みを行っていない場合には、右端にピアノとコーラスが表示されるだけで、あとは空白になります。メニューのスイッチを押すと、画面には1～8のメニューが表示されます。各番号に対応したスイッチを押し、それぞれのモードへ移動します。詳しくは、各項目の操作をご覧ください。

リセット

リセット



マニュアル

プリセット

プリセットは、各鍵盤に対応するすべてのスイッチやコントロールに優先します。上鍵盤や下鍵盤、ペダルの音色をあらかじめ記憶させておき、瞬時に音色の切換えを行ないます。SUPER Bは、工場出荷時に、基本のセッティングをしてありますが、プリセットの内容は、自由に書き換えることができます。また、工場出荷時の初期状態に戻すこともできます。

プリセットの切換え：上鍵盤や下鍵盤にある白黒の反転したキーがプリセット・キーです。最初に電源をオンにしたときには、必ずBのキーにライトがつきます。この状態をマニュアルと呼び、パネル上にある各鍵盤に対応するトーンバーやスイッチ、ビジュアル・ポインターなどはすべてその場でコントロールできます。また、一番下のCからA#までの11鍵にはそれぞれ異なる音色があらかじめセットされており、ワンタッチで音色の切換えを行ないます。プリセットは各鍵盤でひとつだけ使えます。ディスプレイをプレイ・モードにして、プリセット・キーを幾つか押し変えてみてください。ディスプレイ上段のプリセット名やMIDIプログラム・ナンバーと共にトーンバーのセッティングが変わります。初期設定では、白鍵にトーンバーのソロボイス、黒鍵にはトーンバーの合成した音色がプログラムされています。C～A#にあらかじめセットされているプリセットを選んでいるときには、トーンバーを動かしても音色は変化しません。レスリー、ビブラートやパーカッション、ビジュアル・ポインターなどのスイッチは、プリセットを選んだあとで好みに応じて変更できますが、一旦別のプリセットまたはマニュアルに変えると、今行なった変更点はキャンセルされ、最初に設定されているプリセットになります。

SUPER B PRESET
プリセット初期値

UPPER

KEY	NAME	TONEBAR	PERC	SUS.	VIB.	LES.	PATCH	Ch.No.	LIMIT
C	MIDI	00 0000 000	Off	Off	Off	On	00/00	01/03	00-61/61-61
C#	French Horn 8'	00 3740 000	Off	Off	Off	On	01/01	01/03	00-61/61-61
D	Tibias 8' & 2'	00 3408 004	Off	Off	Off	On	02/02	01/03	00-61/61-61
D#	Clarinet 8'	00 3030 340	Off	Off	Off	On	03/03	01/03	00-61/61-61
E	Novel Solo 8'	08 8800 880	Off	Off	Off	On	04/04	01/03	00-61/61-61
F	Theater Solo 16'	60 8088 000	Off	Off	Off	On	05/05	01/03	00-61/61-61
F#	Oboe Horn 8'	00 4685 300	Off	Off	Off	On	06/06	01/03	00-61/61-61
G	Full Tibias 16'	80 8808 008	Off	Off	Off	On	07/07	01/03	00-61/61-61
G#	Trumpet 8'	00 6888 654	Off	Off	Off	On	08/08	01/03	00-61/61-61
A	Full Organ 16'	76 8878 667	Off	Off	Off	On	09/09	01/03	00-61/61-61
A#	Hammond Jazz	88 8000 000	3.S.F	Off	Off	On	10/10	01/03	00-61/61-61
B	Manual						11/11	01/03	00-61/61-61

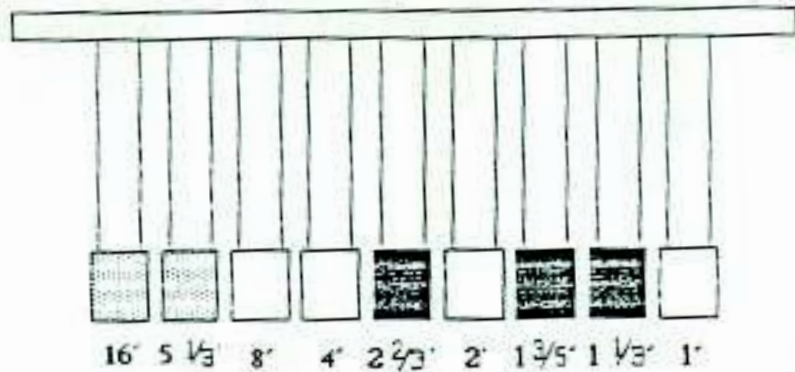
LOWER

KEY	NAME	TONEBAR	SUS.	VIB.	LES.	PATCH	Ch.No.	LIMIT
C	MIDI	00 0000 000	Off	Off	On	00/00	05/07	00-61/61-61
C#	Cello 8'	00 4545 440	Off	Off	On	01/01	05/07	00-61/61-61
D	Dulciana 8'	00 4432 000	Off	Off	On	02/02	05/07	00-61/61-61
D#	Vibraharp 8'	00 4800 000	Off	Off	On	03/03	05/07	00-61/61-61
E	Vox 8' & tibia 4'	00 2500 234	Off	Off	On	04/04	05/07	00-61/61-61
F	String Accomp. 8'	00 6554 322	Off	Off	On	05/05	05/07	00-61/61-61
F#	Open Diapason 8'	00 5642 200	Off	Off	On	06/06	05/07	00-61/61-61
G	Full Accomp. 8'	00 7656 311	Off	Off	On	07/07	05/07	00-61/61-61
G#	Tibia 8'	00 8030 000	Off	Off	On	08/08	05/07	00-61/61-61
A	Bombarde 16'	84 7767 666	Off	Off	On	09/09	05/07	00-61/61-61
A#	Accomp. 8'	00 8400 000	Off	Off	On	10/10	05/07	00-61/61-61
B	Manual					11/11	05/07	00-61/61-61

PEDAL

KEY	NAME	TONEBAR	PED.	SUS.	PATCH	Ch.No.
I	-----	46		3	00	09
II	-----	50	B.G.	4	01	09

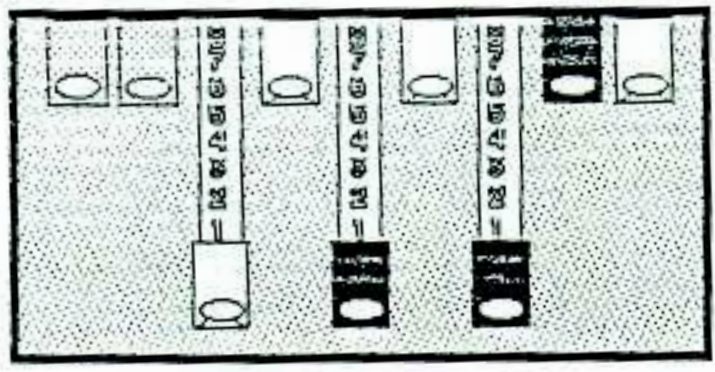
低音 「中音」 「高音」



16' 5 1/3' 8' 4' 2 2/3' 2' 1 3/5' 1 1/3' 1'



中央のCを押える



トーンバー

9本のトーンバーによる2億5千3百万種類の音色バリエーションは、1934年、最初のモデルA型より受け継がれてきたハモンドの音づくりの基本です。9本の異なるピッチ（音の高さ）のサイン波（正弦波）からなるトーンバーの組み合わせにより、さまざまな音色を作ります。左の図のように、8'で中央のC（ド）を押さえたとき、各トーンバーの音の高さは楽譜のようになります。また、トーンバーに記されているフィート（'）という表示は、もともとパイプオルガンのパイプの長さから転用された言葉です。各トーンバーには1～8の数字が記されていますが、これは音色を作るうえでのボリュームであると同時に、簡単にセットするための目印です。例えば、クラリネットを吹くと、管の内部で空気が振動し、基音（8'）と第3倍音（2⅓'）と第5倍音（1⅕'）が同時に発生します。この場合、図のように3本のトーンバーを引き出すと、クラリネットの音が出ます。また、3本のトーンバーのうち、右側を多めに、左側を少なめに引き出すと、（00 2040 800）高い音の成分が多くなり、かたい音の感じになります。逆に、左側のトーンバーを多めに引き出し、（00 8040 200）ソフトな音色をつくり出します。このように、トーンバーを使い、同じ音色でも曲の流れや好みに応じて微妙に音の変化を作ることができます。

白いトーンバー：各トーンバーの中で、白の左端（8'）のトーンバーが基音（すべての倍音の中で最も低い音の成分で、基本になる音）を作ります。そのほかの白いトーンバーは右へ行くほどオクターブづつ高くなります。

黒いトーンバー：黒いトーンバーの音は、基音に対して5度、3度関係の音になっていますが、豊かな音色を組み立てるうえで重要な役割を果たします。甘く柔な響きを持つホルン、艶のある弦楽器など、すべて異なる倍音の成分を含んでいるのです。

フルート系



Accompaniment Flute 8'	00	8460	000
	00	3220	000
	00	8600	000
Bloklöte 8'	00	5310	000
+ 4'	00	0503	010
Chorus of Flutes 16'	80	8605	002
Concert Flute 8'	00	6300	000
Flute 8'	00	6201	000
+ 4'	00	0602	001
+ 2'	00	0106	004
Flute (Organ type) 16'	50	3000	000
+ 8'	00	5300	000
+ 4'	00	0503	000
+ 2'	00	0005	000
Nazard 2 3/4'	00	0030	000
Open Flute 8'	00	7510	000
Orchestral Flute 8'	00	3831	000
Piccolo 2'	00	0006	003
Prinzipal Flöte 8'	00	8540	000
Stopped Flute 8'	00	5020	000
Tibia 8'	00	7030	000
+ 4'	00	0700	030
Tibia (Solo) 8'	00	8020	000
Tibia (Theater) 16'	80	8605	004
Wooden Open Flute 8'	00	8840	000

ストリング系



Cello 8'	00	3564	534
+	00	3564	211
Dulciana 8'	00	7770	000
Gamba 8'	00	3484	443
+	00	3474	121
Gemshorn 8'	00	4741	321
Gross Gamba 8'	00	4786	543
Harmonica (Organ type) 8'	00	1233	321
Keen Strings 8'	00	1687	664
Muted String 8'	00	2452	010
Orchestral String 8'	00	1464	321
Salicional 16'	25	4321	000
+ 8'	00	2453	321
+ 4'	00	0204	052
Soft String 16'	13	3210	000
+ 8'	00	1332	320
Solo Cello 8'	00	3485	543
Solo Viola 8'	00	2474	341
Solo Violin 8'	00	3654	324
String Organ	22	5787	765
+	22	4767	765
Viola da Gamba 8'	00	2465	432
Violin 8'	00	2334	434
+	00	2382	233
+	00	2476	264
Violina 4'	00	0103	064
Violine 16'	26	3431	000

ディアパーソン系



Accompanimental Diapason 8'	00	8874	210
Chorus Diapason 16'	84	8421	000
+ 8'	00	8686	310
+ 4'	00	0806	085
Diapason 8'	00	7785	321
	00	7783	210
Diapason Chorus	61	8855	424
Echo Diapason 16'	43	4421	000
+ 8'	00	4434	210
Harmonic Diapason 16'	85	8524	100
+ 8'	00	8877	760
+	00	8678	453
+	00	6546	532
+ 4'	00	0606	045
Horn Diapason 16'	77	7621	000
+ 8'	00	8887	480
Open Diapason 8'	01	8866	430
+	00	8745	423
+	01	6655	320
Solo Diapason 16'	85	8544	000
+ 8'	01	8855	331
+ 4'	00	0818	055
Swell Diapason 8'	00	7765	320
Wood Diapason 16'	82	7311	000
+ 8'	00	7754	310

リード系



Bassoon 16'	44	7000	000
+ 8'	08	7500	000
Bombarde 16'	86	8400	000
Chorus Reed 8'	00	7777	750
Clarinet 8'	00	6070	540
+	00	6060	300
English Horn 8'	00	3682	210
Flugel Horn 8'	00	5777	530
French Horn	00	7654	321
Kinura 8'	00	0172	786
Oboe (Orchestral) 8'	00	4764	210
+ (Organ type) 8'	00	4571	320
Oboe Horn 8'	00	4675	210
Post Horn 8'	00	6677	530
Reed Chorus	63	8888	863
Saxophone 16'	86	7100	000
+ 8'	01	8762	431
Trombone 8'	01	8777	530
Trumpet (Orchestral) 8'	00	6788	650
+ (Organ type) 8'	00	7677	320
Tuba (Organ type) 16'	88	8864	000
+ +	03	6888	760
Tuba Sonora 8'	02	7788	640
Vox Humana 16'	33	6045	000
+ 8'	00	4720	123

茶色のトーンバー：左端の2本の茶色いトーンバーは、音色に深みと豊かさを加える役目をします。左の16'は、8'の1オクターブ下の音、5 1/2'は16'を基音とする第三倍音です。通常は8'を基音として音色の組み合わせをしますが、音に深みを加えたり、また、鍵盤上の音域を1オクターブ広げたいときなどには16'を基準に音づくりをします。

パイプオルガンの用語では、前者を8フィート律、後者を16フィート律と呼びます。

トーンバーを使うには、まずプリセット・キーをマニュアルにします。（Bのキーを押します）この状態で、トーンバーを動かすと、ディスプレイに表示されているトーンバーの形が動きにあわせて変化します。より正確に合わせる場合は、シフト・スイッチを押してトーンバーを数字で表示させるようにします。もう一度シフト・スイッチを押すと、表示は形に戻ります。

トーンバーの音色調整：

SUPER Bのトーンバーは2種類の音色モードを持っています。一つは伝統的なB型タイプの音源（メロー）、もう一つはより明るさを帯びた音源（ブライツ）です。演奏のスタイルや曲の持ち味に合わせた音の設定ができます。ディスプレイをメニュー・モードにして、5番のトーンバーを選びます。トーンバー・ボイスセレクトの表示に続いて、アパー、ロワーの音源が表示されます。電源を入れた直後には、melow（メロー）と表示されます。ディスプレイの下にあるスイッチで2番を押すと、アパーがbrite（ブライツ）に変わります。また、4番のスイッチを押すと、ロワーがブライツに変わります。両鍵盤を同時に切替えるには、左端のシフト・スイッチを押してください。一般的にはジャズやロックなどにはメローを、パイプオルガンの響きなどにはブライツが適しています。

トーンバーの音色設定

トーンバー・モード メニュー・モード5番で選びます。



トーン・コントロール



DETUNE (デチューン) : トーンバーの中でも、奇数次の倍音 (茶色や黒のトーンバー) は、基音に対して3度または5度に調律されていますが、チューニングを極く僅かにずらすことにより、9本のトーンバーを混ぜ合わせたときに豊かな響きをつくるように設計されています。6番のスイッチで切り換えてください。

LES > 2ch (レスリー・チャンネル) : トーンバーやパーカッションは通常レスリーの別々のチャンネルから出力されますが、出力チャンネルを1チャンネルにすることにより、B型を1チャンネル・レスリー (レスリー-147, 122等) に接続している伝統的なサウンドをつくります。8番のスイッチを押して、1チャンネル、2チャンネルを切り換えてください。

トーン・コントロール :

左側のパネルにあるTONE (トーン) のつまみを回すと、トーンバーの音色は柔らかな音や、輝きのあるシャープな響きに変化します。回転スピーカーのチャンネル (レスリーをオンにしているときに鳴るチャンネル) ROTARYと、固定チャンネル (レスリーをオフにしているときに鳴るチャンネル) STATIONARY別々に設定が可能ですから、演奏する曲や場所の設定に合わせて調節してください。つまみを左へ回すと、高い音の成分がカットされ、ソフトな響きになり、右へ回すと一層輝きを増します。

パーカッション

ハモンド独特の歯切れ良いアタック感を作ります。パーカッションは、単独もしくはトーンバーと合成して使います。

SUPER Bのパーカッションは、タッチ・レスポンス・パーカッションを採用していますので、最初に押した音に対してパーカッションが働きます。以後レガートで弾いた音に対してはパーカッションはかかりません。この効果を上手に利用し、フレーズのより豊かな表現が可能です。

SECOND HARMONIC (セカンド・ハーモニック) : トーンバーの4thの音にアタックと減衰効果を加えたものです。トーンバーと合成することにより、明るさと透明感をつくります。

THIRD HARMONIC (サード・ハーモニック) : トーンバーの第三倍音、2^{3/4}thの音にアタックと減衰効果を加えたものです。トーンバーと合成することにより、力強さと質感を高めるのに適しています。

PERCUSSION SOFT (パーカッション・ソフト) : セカンド、サード・ハーモニックの音量を下げる役割をします。つまり、アタックの頂点を下げる働きです。パーカッションをトーンバーと合成する際に、このスイッチでトーンバーとの音量バランスを設定してください。

DECAY FAST (ディケイ・ファースト) : パーカッションの減衰時間を短くし、一音一音を引き締めます。特に、アップテンポな曲で、歯切れ良いリズム感を出したいときなどに使うと効果的です。

パーカッションは、通常はトーンバーとは別のチャンネルから音が出ますが、メニュー・モード5番のトーンバーでLES (レスリー) を1chにしているときには、トーンバーと同じチャンネルから音が出ます。ジャズやロック、フュージョンなどの音づくりには大変効果的です。

効果の設定

ビブラート、レスリー、サステイン、スロー・アタック、リバーブなどの効果を加えることにより、トーンバーやパーカッションの音色を一層引き立てます。

ビブラート

トーンバーのピッチ（音の高さ）を一定の速さで僅かに変化させ、音色に暖かみを加えます。伝統的なA型やB型と同じ、レコーディングやライブ・ステージでプロフェッショナルに定評のある高品位のビブラートです。

VIBRATO I, II (ビブラート I, II) : Iは、比較的浅いビブラート、IIは標準的な深さのビブラートです。Iはストリングなどの弦楽器系のセッティングや、讃美歌等の穏やかなビブラートに適しています。また、IIはフルート系やシアター・オルガンの効果に最適です。さらに、IとII両方をオンにすると、最も深いビブラートIIIになります。基本的にはレスリーがビブラートに優先しますので、レスリーのスイッチをオンにしているときにはビブラートのスイッチにライトがついていてもビブラート効果はかかりません。ただし、レスリーを1chにしているときにはビブラート効果をかけながら、同時にレスリーをつかうことができます。

CHORUS (コーラス) : このスイッチ単独ではビブラートの働きはしませんが、ビブラートI、IIがオンの時、このスイッチを入れると、ビブラートのかかっていない直線的な音色とビブラートのかかった音色両方が同時に鳴り、ハモンド特有のマイルドな音色をつくります。トーンバーで、88 8000 004とセッティングし、ビブラートIIにコーラスを加えて効果をお確かめください。

レスリー

レスリーは、パイプ・オルガンの音が聴く人の周囲から聞こえてくるように、立体的でダイナミックな音の臨場感を作ります。主としてトーンバーの音色に加えるトレモロ効果です。SUPER Bは、専用のレスリー・トーン・キャビネット412を通してレスリー効果を作ります。

LESLIE UPPER, LESLIE LOWER (レスリー・アパー、レスリー・ロワー) :

レスリー・アパーとレスリー・ロワーは、それぞれ上鍵盤、下鍵盤用のトレモロです。このスイッチを入れると、上鍵盤または下鍵盤のトーンバーの音色がレスリー・チャンネル(回転スピーカーのチャンネル)に切り換わります。

LESLIE REVERB (レスリー・リバーブ) :

レスリー・アパーまたはレスリー・ロワーを入れているとき、リバーブのかかった音をレスリー・チャンネルから出します。テンポの速い曲を、歯切れ良く演奏するのに適しています。

LESLIE FAST (レスリー・ファースト) :

通常、レスリーはゆっくりと回転しており、レスリーアパー、レスリー・ロワーをオンにすると、ゆっくりとしたレスリー効果が得られますが、レスリー・ファーストを入れると、速く、ダイナミックなトレモロ効果になります。パイプ・オルガンのような響きにはスローで、エキサイティングな音づくりにはファーストが効果的です。

トーンバーとレスリー・チャンネル : 最初に電源を入れた状態では、レスリーは2チャンネルに設定されています。(レスリー・チャンネルを確かめるには、メニュー・モード5番の「トーンバー」を押してください。右下にレスリー・チャンネルが表示されます。)

2チャンネルの設定では、レスリーがビブラートに優先し、パーカッションはレスリー・スイッチのオン/オフにかかわらず、常にストレ

ート・チャンネル（正面の固定スピーカーのチャンネルで鳴ります。
また、レスリーチャンネルを1チャンネルに設定すると、トーンバー
にビブラートをかけた状態で、さらにレスリーを加えることができま
す。この時、パーカッションもトーンバーと同じく、レスリー・チャ
ンネルで鳴ります。1チャンネルにしているときに、レスリー・アパ
ーまたは、レスリー・ローアのスイッチをオンにすると、ビブラート
が各鍵盤でキャンセルされます。

サステイン

サステインは、鍵盤から指を離したときに徐々にトーンバーの音を減衰させ、余韻効果を作ります。ハープ、チャイム、鈴などのような響きをつくるのに適しています。サステインは、パネル左側にあるビジュアル・ポインターで好みの長さに設定してください。指で押した位置まで、左側にライトがつきます。もう一度押さえると、サステインはオフになります。長さを変更したい場合は、同じように好みの位置を押してください。ビジュアル・ポインターで設定したサステインの長さは、プリセットに記憶できます。詳しくは、エディット編のプリセットのページをご覧ください。

【注】バーム・グリッサンドや、速いアルペジオなどで、サステインを使用し、各鍵盤で一度に多くの音を鳴らすと、音が途切れるように聞こえることがありますが、これは、同時発音数を越えている場合で、故障ではありません。一般的な演奏上は支障ありません。

スロー・アタック

トーンバーのアタックを緩やかにし、パイプオルガン特有のシフ効果をつくります。通常、トーンバーはシャープなアタックと独得の立ち上がりポップ・ノイズを持っており、ジャズやロックで使われる歯切れ良いフレーズに適しています。一方、クラシックのオルガン曲には、よりパイプオルガンに迫る表現力が要求されます。トーンバーにスロー・アタックをかけることにより、パイプの弁が開くゆっくりとした音の立ち上り効果を作ります。

リバーブ

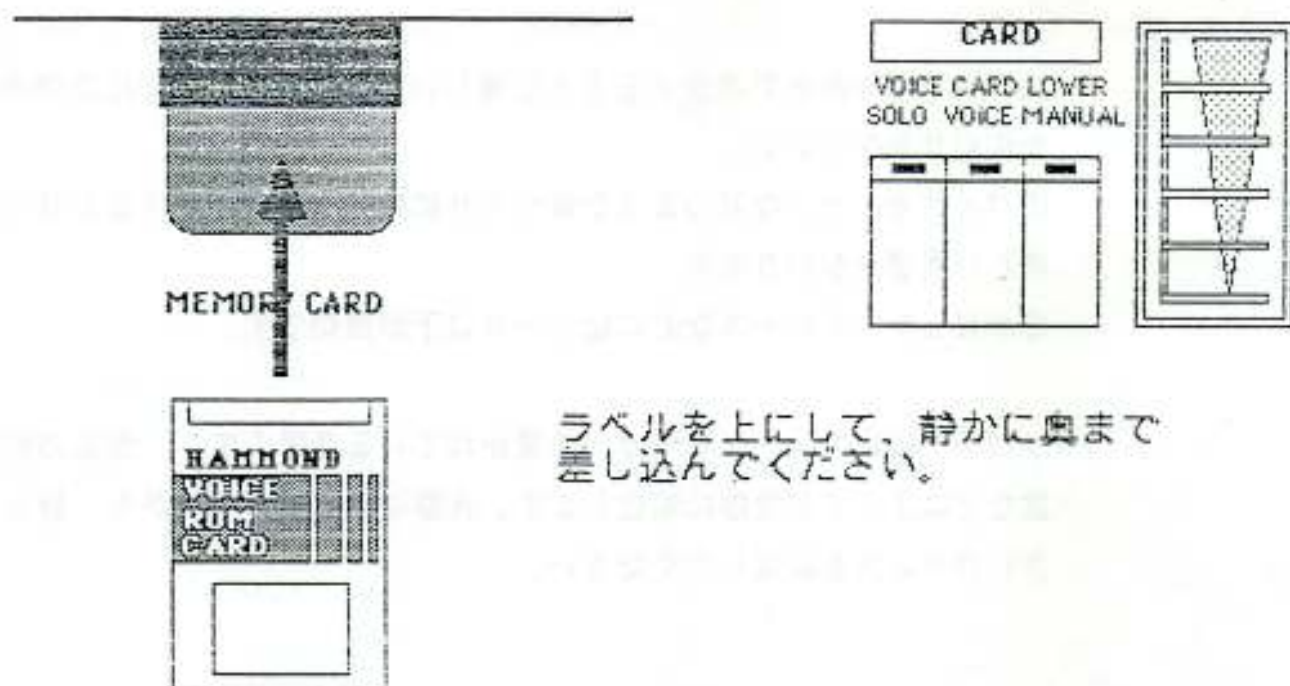
広いホールや教会で演奏するような美しい残響をつくり、音に空間的な広がりを与えます。

①パイプオルガンなどのような音づくりにはやや多めにかけてと長く美しい残響がかかります。

②ポピュラーやジャズなどには $\frac{1}{2}$ ～ $\frac{1}{3}$ 以下が適切です。

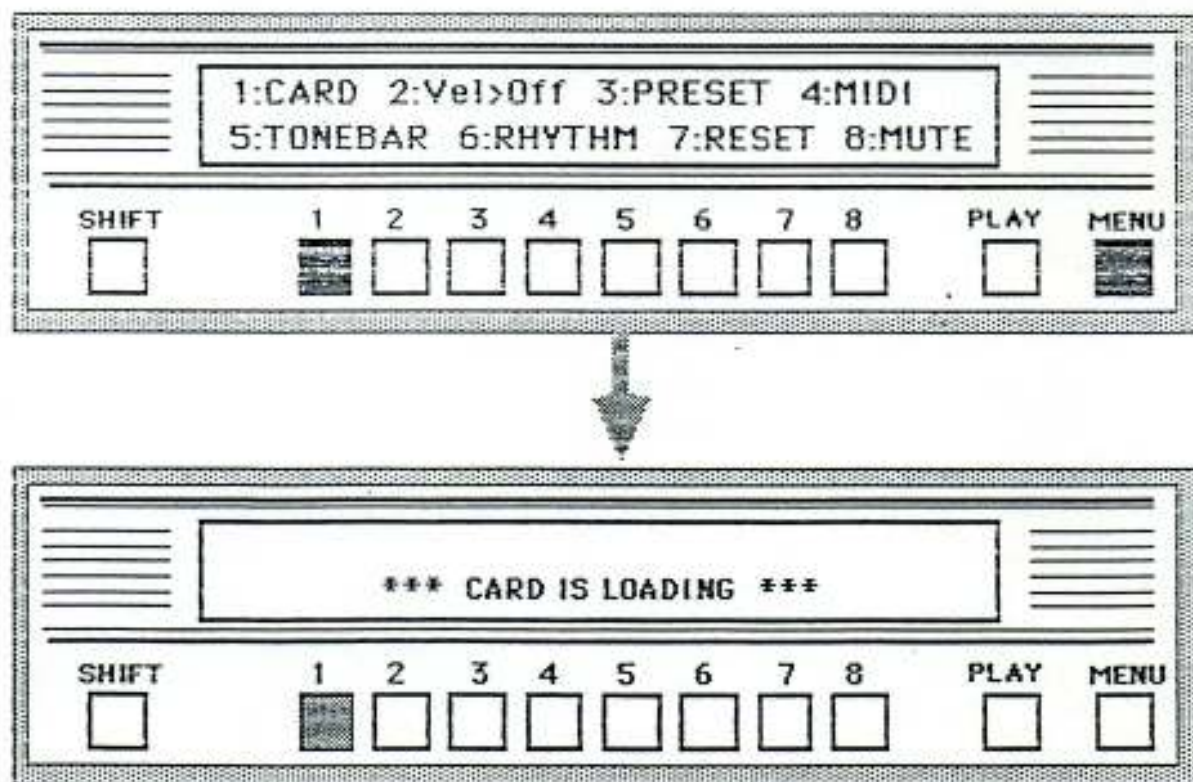
リバーブはレスリースピーカーの置かれている部屋の広さ、家具の配置などによっても微妙に変化します。実際に音を鳴らしながら、最も良いバランスを設定してください。

カード・ボイスのロード



ラベルを上にして、静かに奥まで差し込んでください。

カード・ボイスのロード



カード・ボイス

リアルな楽器音を再現します。艶のあるトランペットの響き、フルートやハーモニカの息づかいなど生の楽器が持つ微妙な音の特徴を忠実に再現する音色グループです。鍵盤タッチにより、立ち上がりの音量や音色をコントロールしたり、コーラス効果を加えることにより、音に空間的な広がりを与えます。6つの音色それぞれに音の輝きやビブラート、コーラス効果の深さなどを曲想にあわせて設定できます。コンパクトなボイスカードROMを差し換えることにより、ワンタッチでディスプレイに表示されている6音色を切替えます。

カード・ボイスのロード（読み込み）：通常、本体の電源を入れた状態では、カード・ボイスは本体の中にはありません。付属のボイスカードROM（読み出し専用メモリー・カード）の内容を、本体のメモリーに読み込ませ、ディスプレイに音色名を表示させたものを選びます。まず、ボイスカードROMのラベルを上にして、カードスロットに奥まで差し込みます。カードはまっすぐに入れてください。入りにくい場合に、無理に押し込むと故障の原因になります。

カードを入れたら、ディスプレイのメニュー・モードで1番を押します。約1秒間Card is loading（カードの読み込み中）と表示され、自動的にプレイ・モードが表示されます。プレイ・モード画面下の段には、今読み込まれた6つの音色名とピアノが表示されています。（ピアノはカードの読み込みにかかわらず常に本体のメモリーに入っています。）もし、読み込みがうまく行かないときにはerror（エラー）が表示されますから、もう一度カードを差し込み直してください。

□カードのロードは、上記の方法のほかに、電源をオンにする前に前もってカードを差し込んでおき、電源オンと同時に読み込ませることもできます。この場合は、改めてカードのロードをさせる必要はありません。

ません。

また、別のカードを読み込ませる場合は、読み込ませたいカードを差し込み、そのままロードを行なってください。一度カードの読み込みを行えば、電源をオフにするか又はメニュー・モード7番のリセットをしないかぎり、音色は本体のメモリーに記憶されています。ですから、ロードを終えたあとでカードをスロットから抜き取っても演奏上は差しつかえありません。

CARD VOICE (カード・ボイス) : プレイ・モードでディスプレイに表示されている音色は、手前にある1~7のスイッチを押して切り換えます。スイッチを押すと、音色名の両側にある括弧()が移動し、その音色が選択されていることを示します。

選んだ音色を鳴らすには、カード・ボイスのスイッチを押してください。上鍵盤で、今選んだ音色が鳴らせます。また、右側にあるビジュアル・ポインターで音量バランスを設定します。

VOICE SOLO (ボイス・ソロ) : カード・ボイスのスイッチを押すと、トーンバー、パーカッションなど上鍵盤で選んでいる音色すべてと、カード・ボイスの音色が同時に混って鳴ります。この時、ボイス・ソロのスイッチを押すと、カード・ボイス以外の音色グループは一時的にキャンセルされ、カード・ボイスの音色だけが残ります。(オーケストラの中でソロを演奏するのと同じです。)もう一度スイッチを押すと、ソロは解除され、他の音色グループと混ります。このスイッチは、カード・ボイスがオンの時に働き、単独ではカード・ボイスの音色は鳴りません。

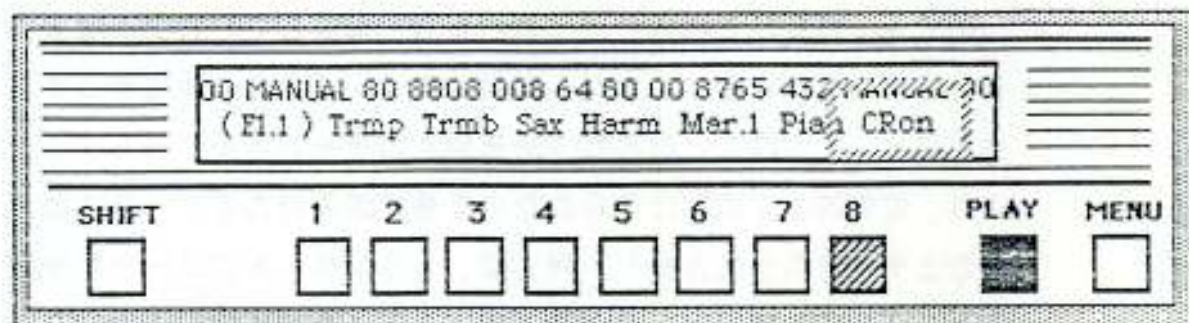
LOWER MANUAL (ローワー・マニュアル) : 通常上鍵盤で鳴っているカード・ボイスを下鍵盤に移すカブラーの役割をします。もちろん、ソロを加えて、下鍵盤でソロ演奏もできます。

CHORUS (コーラス) : カード・ボイスの音色を、極く僅かに異なる二つのピッチに分けて鳴らし、2台の楽器で演奏しているような豊かな音の広がりを作ります。また、専用レスリー412の設定を3チャンネルにし、二つのことなるピッチを別々のチャンネルで鳴らすことにより、電気的な方式では得られない自然で深みのあるコーラス効果を作ります(空間合成方式)。例えば、トランペットにコーラスを加えると、2本のトランペットが鳴っているようなアンサンブル効果ができますし、ピアノにコーラスをかけると、ホンキートンク・ピアノになります。プレイ・モードの画面右下に表示されているCR(コーラス)を8番のスイッチを押して切換えます。最初に、CRof(コーラス・オフ)と表示されていますが、8番のスイッチを押すと、CRon(コーラス・オン)となり、コーラス効果がかかります。もう一度スイッチを押すとオフになります。

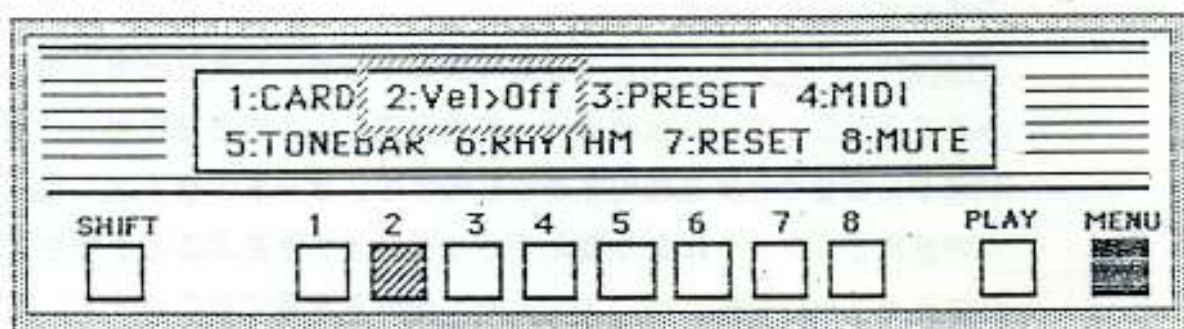
VELOCITY (ベロシティー) : 音量の強弱や音質の変化を鍵盤を弾くタッチで表現します。具体的には、鍵盤を押さえる速さを検出し、速さに応じた音量や音質を再現させるものです。カード・ボイスでは二通りの感度と、タッチにより変化をさせないオフを選ぶことができます。ベロシティーの切換えは、メニュー・モード2番で行ないます。2番のスイッチを一度押さえると、Vel>2、もう一度押すと、Vel>off(オフ)になります。演奏スタイルに合わせてお選びください。ベロシティー1は鍵盤を押すタッチにより音量や音質が直線的に変化し、ベロシティー2では1に較べ、曲線的に変化します。つまり、1では強弱をより明確に区別することができるわけです。ベロシティーをお使いになる場合は、エクスプレッション・ペダルで音量を最も小さくし、弱く演奏すると、音が極端に小さくなることがありますので、ご注意ください。

カード・ボイス

コーラスの切換え



ペロシティー



スイッチをおすと、ペロシティーは、
1、2、offと変化します。

【注】メモリー・カード（ボイス・カードROM，セットアップRAM）は精密な電子部品と接続端子を使用しており、静電気やほこりを嫌います。本体から外し、持ち運び又はおしまいになるときは、必ず付属のカード・ケース（袋）に入れてください。

ペダルの音色

ペダルには2本のトーンバー以外に、ウッド・ベース、ベース・ギターの減衰効果を持つ2つの音色があります。いずれもトーンバーと合成又は単独で鳴らすことができます。音量は、右側のビジュアル・ボイインターで設定します。

WOOD BASS (ウッド・ベース) : 暖か味のある弦バスをはじめた音色です。8' のピッチですから、軽快なベース・ランニングが可能です。

BASS GUITAR (ベース・ギター) : 重みのある16' ピッチのエレクトリック・ベースの音色です。

上記の2つのペダル・ボイスは、同時に使うことはできません。また、サステインなどの効果をかけることもできません。

ペダル・プリセットⅠまたはⅡに、トーンバーとの合成を記憶させ、ワンタッチで切換えることができます。

☞詳しくは、エディット編のプリセットをご覧ください。

MIDI

MIDI (Musical Instrument Digital Interface) 機能をフル装備した SUPER B は、外部音源モジュールやドラム・マシン、シーケンサー等をすべてオルガン本体側からコントロールできます。MIDI は、電子楽器メーカー各社の技術スタッフが集まり編成された MIDI 協議会により定められた世界統一規格で、この企画に基づいて作られた楽器間のコントロールや指示はすべて共通です。具体的には、一つの楽器から他の楽器に対して以下の命令を伝達するための規格です。

(1) 打鍵命令——鍵盤を押す、離すことやその速さ、どの鍵盤を押したのかなど。

(2) コントロールの切換え命令——ビブラートやピアノのサステイン・ペダル、ソフト・ペダル、ピッチ・ベンドやモジュレーションなどの動作。

(3) 音色切換えの命令——音色に付けられた番号を指定し、相手の楽器の音色切換えを行なう。

(4) リズムのテンポ同期やスタート、ストップに関する命令。

(5) 他の MIDI 機器のシステム全体にかける命令。

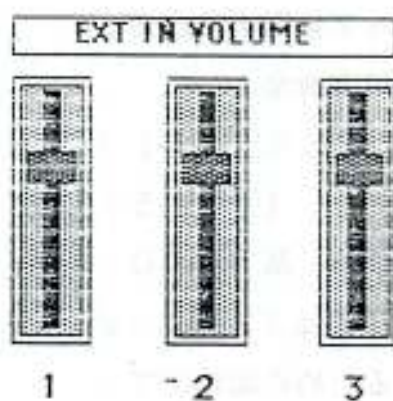
MIDI 専用のケーブルの中を、上記の各命令のうち、(1)(2)(3) は 16 の異なるチャンネルに分けて、また、(4)(5) はすべてのチャンネル共通で送受信されます。つまり、MIDI は、相手側の楽器が持つ音源や機能を、送信側の鍵盤（又はコンピューターやシーケンサー等）により演奏する命令を与えるための媒体です。

SUPER B には多くの機能が盛り込まれており、MIDI OUT（送信）、MIDI IN（受信）、MIDI THRU（受けた命令をそのまま次の MIDI 機器に送る）3つの端子を備えていますから、外部音源やシーケンサー、ドラムマシンなどへのさまざまな組み合わせと拡張が可能です。

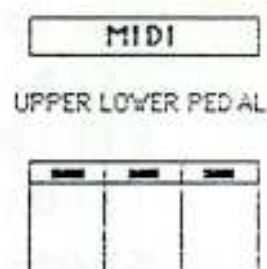
MIDIの接続



外部入力ボリューム



MIDIスイッチ



MIDIの接続：SUPER B本体と相手側の機材を接続します。必ず双方の電源スイッチをオフにして接続してください。本体の鍵盤で相手の音源などを鳴らす場合は、必ずSUPER BのMIDI OUTと相手側のMIDI INにつないでください。誤って接続すると、ショートを起こしたり、故障の原因になります。また、コンピューターやシーケンサーでSUPER Bを鳴らす場合（SUPER Bが受信する場合）には、相手側のMIDI OUTと本体のMIDI INをつなぎます。

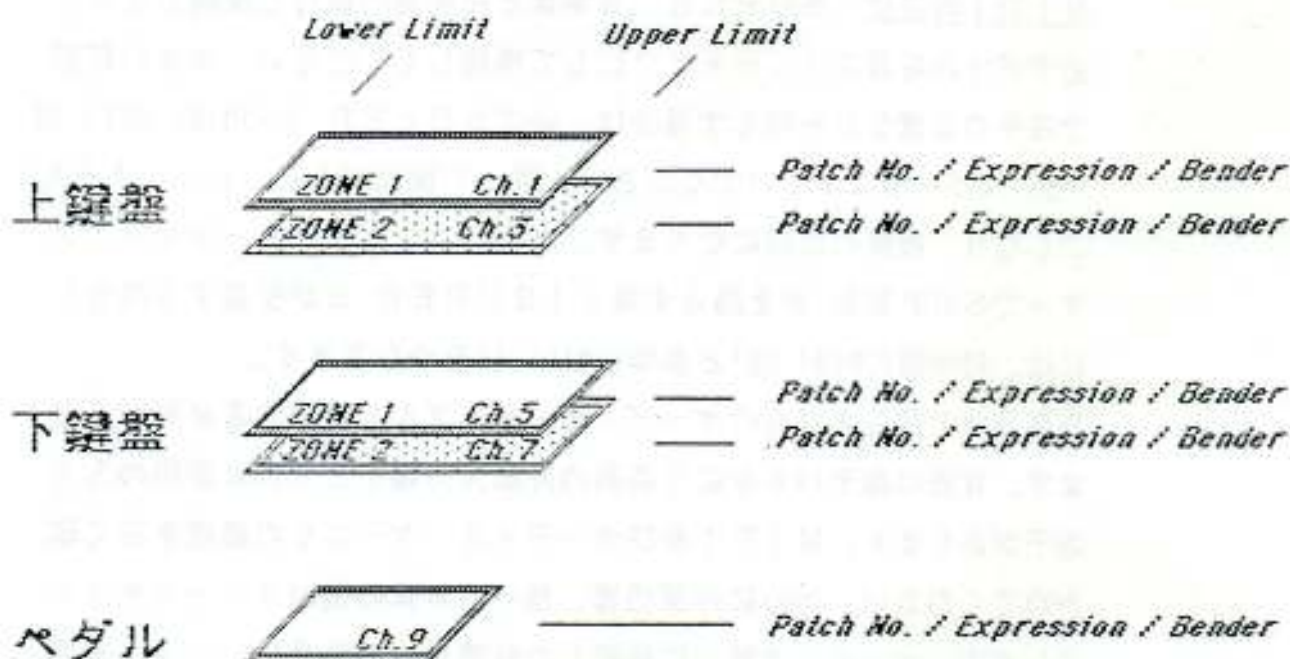
外部音源を鳴らすためのオーディオ・ケーブルも接続する必要があります。背面の端子パネルに3系列の外部入力端子とリズム専用の入力端子があります。MIDI及びオーディオ・ケーブルの接続を良く確かめてください。始めに外部機器、続いて本体の電源スイッチをオンにします。オーディオ端子に接続した外部音源の音量は、パネル左側にあるEXT. IN VOLUMEで調節します。通常は、外部音源のボリュームを3/4位に設定し、本体のスライダーで他の音色グループとのバランスを調節します。

MIDIスイッチ：本体左側のパネルにある3つのMIDIスイッチで、各鍵盤のMIDI情報の出力を行ないます。工場出荷時及びリセットを実行したときには図のような設定になっています。（電源をオンにしたときには、MIDIスイッチは必ずオンになります。）アパー、ロワーにはそれぞれゾーン1とゾーン2があります。それぞれ別々のチャンネルが設定されていますが、これは、各鍵盤で同時に2つの異なる出力を設定するためのものです。例えばアパーでゾーン1にAの外部音源を、ゾーン2にはBの外部音源を接続し、同時にならすことができます。また、各ゾーンの範囲を指定し、鍵盤上のある一定の部分だけでMIDIを入出力させることもできます。

相手側の機器が、オムニ・モードに設定されている場合にはMIDI

MIDIの設定

MIDIの設定



スイッチをオンにしている鍵盤すべての情報を相手側が受信しますので、必要ない鍵盤はMIDIをオフにしてください。基本的にはアパーはチャンネル1、ロワーはチャンネル5、ペダルはチャンネル9で送受信します。従って、相手側が特定のチャンネル指定をしている場合（オムニ・オフ）には本体側のチャンネル設定を合わせる必要があります。

◇詳しくは、エディット編のMIDIをご覧ください。

ピッチ・ベンド：下鍵盤の左側にある2つのホイール（輪）のうち、右側がピッチ・ベンドです。MIDIを通じて外部音源に対し、音程を連続的に変化させます。SUPER Bの設定は、ホイールを手前に回すとピッチは連続的に下がり、逆に向う側へ押すと、ピッチが上がります。ただし、相手側の設定により、動作が逆になったり、ピッチの変化巾が変わる場合がありますのでご注意ください。

モジュレーション・ホイール：モジュレーション・ホイールは、MIDIを通じて外部音源に対し、音色に変調をかけるものです。通常は、ビブラートやワウ効果が設定されていますが、相手側の設定により、多くの用途に使えます。上鍵盤、下鍵盤の各ゾーン毎に異なった設定が可能です。

【注】ピッチ・ベンド及びモジュレーションホイールは外部音源に対してのみ働き、SUPER B本体の各音色グループには働きません。

外部リズム・コントロール

MIDI対応のドラム・マシンやシーケンサーを接続している場合には、SUPER B本体の外部リズム・コントロールでスタート/ストップやテンポのコントロールを行います。

接続は、他のMIDI機材同様にMIDIケーブルをSUPER BのOUT（アウト）から相手側のIN（イン）につなぎます。本体から2台以上のMIDI機材を同時に接続する場合には、1台目の機材のMIDI INに接続したあとで1台目のMIDI THRU（スルー）から2台目のMIDI INに接続してください。本体から出るMIDIの命令は、順繰りに送られます。

【注1】本体でコントロールするMIDI機材は、上記の方法で接続しますが、3台～4台を越えると、データ処理に時間を要し、弾いた音やテンポなどが僅かに遅れて聞こえることがあります。数台の機材を接続する場合には、できるだけバラ・ボックス（MIDIデータの送信を並列送信に変換するもの）のご使用をお勧めします。

【注2】ドラム・マシンなど正確なテンポやタイミングを必要とする機材は、できるだけ本体に近いところに接続するようにお勧めします。

【注3】相手側の機材は、通常は本体内部でテンポ（テンポ・クロック）を発生させていますが、SUPER Bでコントロールする場合にはSUPER Bが送信するテンポに同期させる必要があります。相手側のクロックをEXTERNAL（エクスターナル：外部）に切替えてください。また、SUPER B本体の鍵盤を弾いたとき、リズムの音源が鳴ることがありますが、これは、相手側のチャンネルがSUPER Bのチャンネル設定と同じになっているか又はオムニ・モードが設定されている場合ですから、相手側機材の設定を変えてください。

スタートさせるには、ストップ/スタートのスイッチを押しますが、以下のスイッチとの組み合わせにより、3つの方法があります。

3つのスイッチのどれか一つを押してからスタートを押してください。

① CONTINUOUS (コンティニュアス) : 最も一般的なスタート方法です。スタートを押すと、外部の機材にプログラムされているパターンやソングの1拍目の最初からスタートします。リズムのスタート後にこのスイッチを一旦オフにし、そのまま再びオンにすると、リズムは途中からスタートします。

② TOUCH START (タッチ・スタート) : このスイッチをオンにして、スタートを押し、下鍵盤又はペダルを押すと、最初に押したときに外部リズムのスタートがかかります。

③ TOUCH RESET (タッチ・リセット) : このスイッチをオンにして、スタートを押すと、下鍵盤を弾いているときのみ外部のリズムが動作します。

テンポのコントロール : 外部リズムのテンポ・コントロールは、<と>の2つの矢印キーで行ないます。<を押し続けると、テンポは段々遅くなり、>を押し続けると次第に速くなります。この2つのスイッチにはライトはつきません。

テンポは、ディスプレイのメニュー・モード6番を押すと♪=の数字で表示されます。

プロ・フット

エクスプレッション・ペダル左側にあるフット・スイッチで、レスリーのスローファーストやカード・ボイスのソロ、サステイン、リズムのスタート/ストップをコントロールします。各機能は、上鍵盤の左側にある5つのスイッチで選びます。

LESLIE FAST (レスリー・ファースト) : このスイッチをオンにして、フット・スイッチを左へ軽くキックし、すぐ離すとレスリーのスロー/ファーストが切替わります。パネル左側にある通常のレスリー・ファーストのスイッチと併用できます。

CARD SOLO (カード・ソロ) : カード・ボイスを他の音色グループと一緒に使用しているとき、このモードでフット・スイッチを軽くキックすると、カード・ボイスは一時的にソロになります。また、もう一度キックするとソロ及びカード・ボイスは解除されます。また、カード・ボイスを使っていないときにこのモードでフット・スイッチをキックすると、カード・ボイス及びカード・ソロ両方が同時にオンになります。(パネル上のボイス・ソロがオンになっているときにキックすると、ソロはオフになります。)

CARD SUS. (カード・サステイン) : このスイッチをオンにし、フット・スイッチを左へ押し続けている間、カード・ボイスの音色の減衰を長くしたり、音を持続させたりします。音に減衰を持つ音色の場合は、ピアノのサステイン・ペダルと同じ働きをします。また、トランペットやフルートのように持続音を持つ楽器の場合には、弾いた音色を持続させます。カード・ボイスをピアノにして効果をお確かめください。

RHYTHM START (リズム・スタート) : 外部リズム・コントロールにあるスタート/ストップと同じ働きをします。一度キックすると、スタートが働き、もう一度キックするとストップになります。

MIDI FOOT SW. (MIDIフット・スイッチ) : M I D Iで外部音源を使用している際に、外部M I D I 機材に対してサステイン・ペダルの役割をします。(コントロール・チェンジ64番)。

フットスイッチを押し続けている間は、減衰が長くなります。

(この機能は、あらかじめ相手側の機材でサステインのコントロールを受信するように設定されている必要があります。)

トランスポーズ

ワンタッチで、上下に6段階、半音刻みの移調が可能です。

トランスポーズは、上鍵盤の左端にある二つのスイッチで行ないます。手前側のスイッチを1回押すと、ライトがつき、オルガン全体の調整は、半音下がります。この時、ディスプレイのプレイ・モード右下に、TP-1と表示され、1ステップ低い調性になっていることを示します。このように、トランスポーズのスイッチを1回押すごとに1ステップずつ移調します。スイッチを押し続けると、トランスポーズの値は連続して最大6ステップまで変化します。

移調したトランスポーズを元の調性に一度に戻すには、二つのスイッチを両方同時に押してください。

【注1】ディスプレイでトランスポーズ(TP)が表示されている間は、カード・ボイスのコーラスは表示されません。コーラスを表示させる場合は、8番のスイッチを押してください。

【注2】外部M I D I 音源をご使用の場合、トランスポーズをすると、相手側の機材が持つ音域の範囲で移調できますが、M I D Iの場合、トランスポーズは、各鍵盤に対応する番号(ノート・ナンバー)をずらして送信するため、相手側の機材ではトランスポーズせずに、送られてきたノート・ナンバーで鳴らします。このため、トランスポーズのかかったSUPER B本体の鍵盤と、外部音源についている鍵盤を同時に演奏すると、調性が異なりますのでご注意ください。

故障とお考えになる前に

次のような現象は、故障ではありません。修理を依頼される前に、お確かめください。

○上鍵盤、下鍵盤での同時発音数は、

トーンバー : アパー、ロワーの合計10音

パーカッション : 4音 (カード・ボイス使用時2音)

カード・ボイス : 7音

ペダル : 2音

となっています。一般的な演奏には全く支障ありません。

○トーンバーを動かしても音色やディスプレイが変化しない場合は、プリセット・キーを使用していないかもう一度お確かめください。

○電源を入れている間、レスリーから風を切るような音が聞こえることがあります。これはレスリーが回転する際に極く僅かに発生する音です。特に長い間電源を入れずに置いた場合、始めのうちかすかな音が聞こえることがあります。故障ではありません。

○電源を入れて本体が起動するまで約3秒間かかります。これは、本体の動作に必要なプログラムを読み込むためで、故障ではありません。

○SUPER Bは、高速デジタル処理を行なっていますが、演奏中に多くの操作を同時に行なったとき、トーンバーを動かすと、音色やディスプレイの変化がわずかに遅れるように感じることもあるかもしれませんが、通常の演奏には支障ありません。

○上鍵盤、下鍵盤、ペダルを同時に鳴らした場合、極くまれに音が小さく聞こえることがあります。

○部屋が共鳴したり、音が割れたように聞こえる場合、共鳴している家具などからレスリーを離すか、又はオルガンの音量を調節してください。

アフター・サービスと保証について

①この商品には保証書を別途添付しております。保証書は、販売店で記名の上お渡しいたしますので、所定の記入及び記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。

②保証期間は、お買上日より1年間です。保証書の記載内容により販売店が修理いたします。その他詳細は保証書をご覧ください。

③保証期間経過後の修理は、販売店にご相談ください。修理が可能な場合は、お客様のご要望により、有料修理いたします。

S 株式会社 ハモンド スズキ